

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第333集

---

北 埼 玉 郡 北 川 辺 町

---

# 飯 積 遺 跡 I

---

大高島地区河川防災ステーション整備事業関係  
埋蔵文化財発掘調査報告

— I —

2 0 0 7

国土交通省 関東地方整備局  
財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



1 飯積遺跡遠景



2 飯積遺跡全景



1 第79号住居跡出土遺物



2 第1号溝跡出土遺物

## 序

埼玉県は、県民ニーズの多様化や社会経済状況の変化に対応し、誰もが豊かさを実感できる埼玉県を実現するため、「安全で安心して生活できる県土づくり」を基本理念として、河川改修・砂防施設の整備を推進しています。また、国土交通省では、河川の洪水氾濫等による災害から貴重な生命、財産を守り、安心して暮らせるよう、浸透・越水に対して高い安全性を有する高規格堤防を整備しています。

北川辺町は、埼玉県の北東端に位置し、群馬、栃木、茨城の3県と接しており、古くから利根川や渡良瀬川などの洪水に悩まされてきました。町の四方を巡る堤防や町内に残る水塚の存在は、水害の歴史を物語っていると言えます。

大高島地区河川防災ステーションは、利根川上流区域から渡良瀬川合流点における氾濫等の災害に対して、迅速に対応するための拠点として、平成16年度から整備事業が行われております。

この事業地内は、かねてから飯積遺跡の存在が知られていました。整備に当たり、事業地内の遺跡の取扱いについては、関係諸機関が慎重に協議を重ねましたが、やむを得ず、記録保存の処置を講ずることとなりました。

発掘調査は、埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課（当時）の調整により、当事業団が国土交通省関東地方整備局の委託を受けて実施いたしました。

発掘調査の結果、古墳時代の流路跡、古墳時代後期から奈良・平安時代の竪穴住居跡、中世末期の溝跡や井戸跡などの遺構が、多数折り重なるように発見されました。とくに古墳時代には、洪水によって埋まった流路跡に集落がつけられたことや、周辺地域の土器が多数出土することがわかりました。この頃から人々は、河川と密接に関わり、また他地域と活発な交流をしていたことがうかがえます。

本書はこれらの発掘調査の成果をまとめたものであります。埋蔵文化財の保護や学術研究の基礎資料として、また、普及・啓発および各教育機関の参考資料として広く活用していただければ幸いです。

本報告書の刊行にあたり、発掘調査に関する諸調整に御尽力いただきました埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課をはじめ、発掘調査から報告書刊行に至るまで御協力いただきました国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所、北川辺町教育委員会並びに地元関係者各位に対し、深く感謝申し上げます。

平成19年3月

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

理事長 福田 陽 充

## 例 言

1 本書は、北埼玉郡北川辺町大字飯積に所在する飯積遺跡第2次調査の発掘調査報告書である。

なお、第3次調査・第4次調査については第334集「飯積遺跡Ⅱ」を参照されたい。

2 遺跡の略号と代表地番及び発掘調査届に対する指示通知は、以下のとおりである。

飯積遺跡第2次（IIZM2）

埼玉県北埼玉郡北川辺町大字飯積字本村165番地

平成15年9月30日付け 教文第2—50号

3 発掘調査は、大高島地区河川防災ステーション整備事業に伴う埋蔵文化財記録保存のための事前調査である。調査は埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課（当時）が調整し、国土交通省関東地方整備局の委託を受け、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。

4 発掘調査事業は、I—3の組織により実施した。調査は、平成15年9月22日から平成16年3月24日まで実施し、岩瀬譲、永井いずみが担当、高田賢治の補助を受けた。

整理・報告書作成事業は第2次調査、第3次調査・第4次調査を同時並行、平成17年度（平成17年4月8日から平成18年3月31日）と平成18年度（平成18年4月10日から平成19年3月31日）の2ヵ年実施した。担当は以下のとおりである。

鍛持和夫（平成18年7月から平成18年8月）

鈴木孝之（平成18年4月から平成18年9月）

岩瀬 譲（平成18年4月から平成19年3月）

加藤隆則（平成17年4月から平成18年3月）

（平成18年9月から平成19年3月）

清水慎也（平成18年4月から平成18年6月）

5 遺跡の基準点測量は朝日航洋株式会社、空中写真は中央航業株式会社に委託した。

6 発掘調査時の写真撮影は発掘担当者が行い、遺物の写真撮影は大塚道則が行った。

7 出土品の整理・図版作成は鍛持、鈴木、岩瀬、加藤、清水が行い、西井幸雄、瀧瀬芳之、村端和樹の協力、吉田美子、成田友紀子、兵ゆり子、山北美徳の補助を受けた。

8 本書の執筆は、I—1は埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課が、I—2・3、Ⅲ—1・2、Vは岩瀬、Ⅱ、Ⅲ—3は加藤が、他は鈴木、岩瀬、加藤が協議の上行った。

9 本書の編集は岩瀬が行った。

10 本書に掲載した資料は、平成19年4月以降埼玉県教育委員会が管理・保管する。

11 本書の作成にあたり下記の機関・方々から御指示・御指導・御協力を賜った。記して感謝の意を表します。（敬称略）

北川辺町教育委員会 埼玉地区文化財担当者会

池尻 篤 今井秀行 江田美喜子

柿沼幸治 高村敏則 小堀 悟

田口直人 立川明浩 津野 仁

藤野一之 宮田裕記枝



# 目次

巻頭図版

序

例言

凡例

目次

I 発掘調査の概要	1	IV 検出された遺構と遺物	29
1. 発掘調査に至る経過	1	1. 竪穴住居跡	29
2. 発掘調査・報告書作成の経過	2	2. 土坑	218
3. 発掘調査・整理・報告書刊行の組織	3	3. 井戸跡	224
II 遺跡の立地と環境	4	4. 溝跡	234
1. 地理的環境	4	5. グリッド出土遺物	244
2. 歴史的環境	6	V 調査のまとめ	261
III 遺跡の概要	15	1. 住居跡の動向	261
1. 調査の方法	15	2. 溝跡について	268
2. 基本層序	15		
3. 遺跡の概要	16		

写真図版

## 挿 図 目 次

第1図	埼玉県の地形	4	第36図	第6号住居跡	43
第2図	飯積遺跡周辺図	5	第37図	第6号住居跡カマド	44
第3図	飯積遺跡周辺の地形	6	第38図	第7号住居跡	45
第4図	遺跡分布図(旧石器-弥生)	9	第39図	第7号住居跡出土遺物	46
第5図	遺跡分布図(古墳-中・近世)	12	第40図	第8号住居跡	47
第6図	基本土層図	15	第41図	第8号住居跡出土遺物	47
第7図	遺跡の範囲	16	第42図	第9号住居跡	48
第8図	調査区全体図	17	第43図	第9号住居跡出土遺物	49
第9図	調査区と驚神社	20	第44図	第10号住居跡	49
第10図	グリッド配置図	21	第45図	第10号住居跡カマド	50
第11図	全体図①	22	第46図	第10号住居跡遺物出土状況	51
第12図	全体図②	23	第47図	第10号住居跡出土遺物	52
第13図	全体図③	24	第48図	第11号住居跡出土遺物	52
第14図	全体図④	25	第49図	第11号住居跡	53
第15図	全体図⑤	26	第50図	第12号住居跡	53
第16図	全体図⑥	27	第51図	第13号住居跡出土遺物	54
第17図	調査区全体図	28	第52図	第13号住居跡	55
第18図	住居跡全体図	29	第53図	第14・19号住居跡	56
第19図	第1号住居跡	30	第54図	第15号住居跡	57
第20図	第1号住居跡遺物出土状況	30	第55図	第15号住居跡出土遺物	58
第21図	第1号住居跡出土遺物	31	第56図	第16号住居跡出土遺物	58
第22図	第2号住居跡	32	第57図	第16号住居跡	59
第23図	第2号住居跡遺物出土状況	32	第58図	第17号住居跡	60
第24図	第2号住居跡出土遺物	33	第59図	第17号住居跡出土遺物	61
第25図	第3号住居跡	34	第60図	第18号住居跡	62
第26図	第3号住居跡遺物出土状況	34	第61図	第18号住居跡出土遺物	63
第27図	第3号住居跡出土遺物	35	第62図	第19号住居跡出土遺物	63
第28図	第4号住居跡	36	第63図	第20号住居跡カマド	64
第29図	第4号住居跡カマド	37	第64図	第20号住居跡	65
第30図	第4号住居跡遺物出土状況	38	第65図	第20号住居跡出土遺物	66
第31図	第4号住居跡出土遺物(1)	39	第66図	第21号住居跡カマド	67
第32図	第4号住居跡出土遺物(2)	40	第67図	第21号住居跡	68
第33図	第5号住居跡	41	第68図	第21号住居跡出土遺物	68
第34図	第5号住居跡遺物出土状況	41	第69図	第22号住居跡出土遺物	69
第35図	第5号住居跡出土遺物	42	第70図	第22号住居跡	70



第71区	第23号住居跡カマド	71	第108区	第39号住居跡遺物出土状況	104
第72区	第23号住居跡	72	第109区	第39号住居跡出土遺物	104
第73区	第23号住居跡出土遺物	73	第110区	第40号住居跡出土遺物	105
第74区	第24号住居跡出土遺物	73	第111区	第40号住居跡	105
第75区	第24号住居跡	74	第112区	第41号住居跡	106
第76区	第25号住居跡	75	第113区	第41号住居跡出土遺物	107
第77区	第25号住居跡カマド	75	第114区	第42号住居跡	107
第78区	第25号住居跡出土遺物	76	第115区	第43号住居跡出土遺物	108
第79区	第26号住居跡	76	第116区	第43号住居跡	109
第80区	第27号住居跡	77	第117区	第44号住居跡	110
第81区	第27号住居跡カマド	78	第118区	第44号住居跡遺物出土状況	110
第82区	第27号住居跡出土遺物	78	第119区	第44号住居跡出土遺物	111
第83区	第28号住居跡	79	第120区	第45号住居跡カマド	111
第84区	第28号住居跡出土遺物	80	第121区	第45号住居跡	112
第85区	第29号住居跡	81	第122区	第45号住居跡出土遺物	112
第86区	第29号住居跡遺物出土状況	82	第123区	第46号住居跡	113
第87区	第29号住居跡出土遺物 (1)	83	第124区	第46号住居跡遺物出土状況	114
第88区	第29号住居跡出土遺物 (2)	84	第125区	第46号住居跡出土遺物	114
第89区	第30号住居跡	85	第126区	第47号住居跡	115
第90区	第30号住居跡出土遺物	86	第127区	第47号住居跡遺物出土状況	116
第91区	第30号住居跡遺物出土状況	87	第128区	第47号住居跡出土遺物 (1)	117
第92区	第31号住居跡	88	第129区	第47号住居跡出土遺物 (2)	118
第93区	第32・36・37・67号住居跡 (1)	89	第130区	第48号住居跡	119
第94区	第32・36・37・67号住居跡 (2)	90	第131区	第48号住居跡カマド	120
第95区	第33号住居跡 (1)	91	第132区	第48号住居跡遺物出土状況	121
第96区	第33号住居跡 (2)	92	第133区	第48号住居跡出土遺物	122
第97区	第33号住居跡出土遺物	92	第134区	第49号住居跡出土遺物	123
第98区	第33号住居跡遺物出土状況	93	第135区	第49号住居跡	124
第99区	第34号住居跡	94	第136区	第50号住居跡	125
第100区	第35号住居跡出土遺物	95	第137区	第50号住居跡遺物出土状況	125
第101区	第35号住居跡	96	第138区	第50号住居跡出土遺物	126
第102区	第36号住居跡遺物出土状況	97	第139区	第51号住居跡	127
第103区	第36号住居跡出土遺物 (1)	98	第140区	第51号住居跡遺物出土状況	127
第104区	第36号住居跡出土遺物 (2)	99	第141区	第51号住居跡出土遺物	128
第105区	第37号住居跡出土遺物	100	第142区	第52号住居跡	130
第106区	第38号住居跡	102	第143区	第52号住居跡カマド	131
第107区	第39号住居跡	103	第144区	第52号住居跡遺物出土状況	132

第143図	第52号住居跡出土遺物	133	第182図	第68号住居跡出土遺物	167
第146図	第53号住居跡	134	第183図	第69号住居跡出土遺物	167
第147図	第53号住居跡遺物出土状況	135	第184図	第71号住居跡	168
第148図	第53号住居跡出土遺物	136	第185図	第71号住居跡カマド	169
第149図	第54号住居跡出土遺物	137	第186図	第72号住居跡	170
第150図	第54号住居跡	138	第187図	第72号住居跡出土遺物(1)	171
第151図	第55号住居跡	140	第188図	第72号住居跡出土遺物(2)	172
第152図	第55号住居跡遺物出土状況	141	第189図	第73号住居跡カマド	173
第153図	第55号住居跡出土遺物	142	第190図	第73号住居跡	174
第154図	第56号住居跡出土遺物	143	第191図	第73号住居跡出土遺物	174
第155図	第56号住居跡	144	第192図	第74号住居跡遺物出土状況	175
第156図	第56号住居跡カマド	145	第193図	第74号住居跡	176
第157図	第57号住居跡	146	第194図	第74号住居跡出土遺物	177
第158図	第57号住居跡出土遺物	146	第195図	第75号住居跡出土遺物	178
第159図	第58号住居跡	147	第196図	第75号住居跡	178
第160図	第58号住居跡カマド	148	第197図	第76号住居跡	179
第161図	第58号住居跡出土遺物	148	第198図	第76号住居跡遺物出土状況	179
第162図	第59・69号住居跡	149	第199図	第76号住居跡出土遺物	180
第163図	第59号住居跡カマド	150	第200図	第77号住居跡(1)	181
第164図	第59・69号住居跡遺物出土状況	151	第201図	第77号住居跡(2)	182
第165図	第59号住居跡出土遺物	152	第202図	第77号住居跡カマド	182
第166図	第60号住居跡	153	第203図	第77号住居跡遺物出土状況	183
第167図	第60号住居跡遺物出土状況	154	第204図	第77号住居跡出土遺物	184
第168図	第60号住居跡出土遺物	154	第205図	第78号住居跡	186
第169図	第61号住居跡	155	第206図	第78号住居跡カマド	186
第170図	第61号住居跡出土遺物	156	第207図	第78号住居跡遺物出土状況	187
第171図	第62号住居跡出土遺物	157	第208図	第78号住居跡出土遺物	187
第172図	第62号住居跡	158	第209図	第79・89号住居跡	188
第173図	第63・65号住居跡	159	第210図	第79号住居跡カマド	189
第174図	第64号住居跡カマド	159	第211図	第79号住居跡遺物出土状況	190
第175図	第64号住居跡	160	第212図	第79号住居跡出土遺物(1)	191
第176図	第64号住居跡遺物出土状況	161	第213図	第79号住居跡出土遺物(2)	192
第177図	第64号住居跡出土遺物	162	第214図	第79号住居跡出土遺物(3)	193
第178図	第66号住居跡	163	第215図	第80号住居跡	195
第179図	第66号住居跡出土遺物	164	第216図	第80号住居跡カマド	196
第180図	第68号住居跡	165	第217図	第80号住居跡遺物出土状況	196
第181図	第68号住居跡遺物出土状況	166	第218図	第80号住居跡出土遺物	197

第219図	第81号住居跡	198	第251図	井戸跡全体図	225
第220図	第81号住居跡カマド	199	第252図	井戸跡 (1)	226
第221図	第81号住居跡遺物出土状況	200	第253図	井戸跡 (2)	227
第222図	第81号住居跡出土遺物	201	第254図	井戸跡 (3)	228
第223図	第82号住居跡	202	第255図	井戸跡 (4)	230
第224図	第82号住居跡遺物出土状況	203	第256図	井戸跡 (5)	232
第225図	第82号住居跡出土遺物	204	第257図	井戸跡出土遺物	233
第226図	第83号住居跡	205	第258図	溝跡全体図	235
第227図	第83号住居跡出土遺物	206	第259図	溝跡 (1)	236
第228図	第84号住居跡	206	第260図	溝跡土層断面図	237
第229図	第85号住居跡	207	第261図	第1号溝跡遺物出土状況	238
第230図	第85号住居跡遺物出土状況	208	第262図	溝跡 (2)	239
第231図	第85号住居跡出土遺物	208	第263図	溝跡出土遺物 (1)	240
第232図	第86号住居跡出土遺物	209	第264図	溝跡出土遺物 (2)	241
第233図	第86号住居跡	209	第265図	溝跡出土遺物 (3)	242
第234図	第87号住居跡	210	第266図	溝跡出土遺物 (4)	243
第235図	第87号住居跡遺物出土状況	211	第267図	グリッド出土遺物 (1)	245
第236図	第87号住居跡出土遺物	212	第268図	グリッド出土遺物 (2)	246
第237図	第88号住居跡出土遺物	212	第269図	グリッド出土遺物 (3)	247
第238図	第88号住居跡	213	第270図	グリッド出土遺物 (4)	248
第239図	第89号住居跡出土遺物	214	第271図	グリッド出土遺物 (5)	249
第240図	第90号住居跡出土遺物	214	第272図	グリッド出土遺物 (6)	250
第241図	第90号住居跡	214	第273図	グリッド出土遺物 (7)	251
第242図	第91号住居跡	215	第274図	グリッド出土遺物 (8)	252
第243図	第92号住居跡	216	第275図	グリッド出土遺物 (9)	253
第244図	第92号住居跡出土遺物	217	第276図	グリッド出土遺物 (10)	254
第245図	第92号住居跡カマド	217	第277図	5世紀代の住居跡	263
第246図	土坑全体図	218	第278図	6世紀代の住居跡	264
第247図	土坑 (1)	220	第279図	7世紀代の住居跡	265
第248図	土坑 (2)	221	第280図	7世紀末から8世紀代の住居跡	266
第249図	土坑出土遺物 (1)	222	第281図	9・10世紀代の住居跡	267
第250図	土坑出土遺物 (2)	223	第282図	飯桶遺跡溝跡全体図	269

## 表 目 次

第1表	北川門遺跡一覽	7	第36表	第40号住居跡出土遺物觀察表	105
第2表	第1号住居跡出土遺物觀察表	31	第37表	第41号住居跡出土遺物觀察表	107
第3表	第2号住居跡出土遺物觀察表	33	第38表	第43号住居跡出土遺物觀察表	108
第4表	第3号住居跡出土遺物觀察表	35	第39表	第44号住居跡出土遺物觀察表	111
第5表	第4号住居跡出土遺物觀察表	39	第40表	第45号住居跡出土遺物觀察表	113
第6表	第5号住居跡出土遺物觀察表	42	第41表	第46号住居跡出土遺物觀察表	114
第7表	第7号住居跡出土遺物觀察表(1)	45	第42表	第47号住居跡出土遺物觀察表	118
第8表	第7号住居跡出土遺物觀察表(2)	46	第43表	第48号住居跡出土遺物觀察表(1)	121
第9表	第8号住居跡出土遺物觀察表	48	第44表	第48号住居跡出土遺物觀察表(2)	123
第10表	第9号住居跡出土遺物觀察表	49	第45表	第49号住居跡出土遺物觀察表	123
第11表	第10号住居跡出土遺物觀察表	51	第46表	第50号住居跡出土遺物觀察表	126
第12表	第11号住居跡出土遺物觀察表	53	第47表	第51号住居跡出土遺物觀察表	129
第13表	第13号住居跡出土遺物觀察表(1)	55	第48表	第52号住居跡出土遺物觀察表(1)	131
第14表	第13号住居跡出土遺物觀察表(2)	56	第49表	第52号住居跡出土遺物觀察表(2)	132
第15表	第15号住居跡出土遺物觀察表	58	第50表	第53号住居跡出土遺物觀察表	137
第16表	第16号住居跡出土遺物觀察表	59	第51表	第54号住居跡出土遺物觀察表	139
第17表	第17号住居跡出土遺物觀察表	61	第52表	第55号住居跡出土遺物觀察表(1)	141
第18表	第18号住居跡出土遺物觀察表	62	第53表	第55号住居跡出土遺物觀察表(2)	143
第19表	第19号住居跡出土遺物觀察表	64	第54表	第56号住居跡出土遺物觀察表	143
第20表	第20号住居跡出土遺物觀察表	67	第55表	第57号住居跡出土遺物觀察表	146
第21表	第21号住居跡出土遺物觀察表	69	第56表	第58号住居跡出土遺物觀察表	147
第22表	第22号住居跡出土遺物觀察表	69	第57表	第59号住居跡出土遺物觀察表(1)	152
第23表	第23号住居跡出土遺物觀察表	72	第58表	第59号住居跡出土遺物觀察表(2)	153
第24表	第24号住居跡出土遺物觀察表	73	第59表	第60号住居跡出土遺物觀察表	154
第25表	第25号住居跡出土遺物觀察表	76	第60表	第61号住居跡出土遺物觀察表	157
第26表	第27号住居跡出土遺物觀察表	78	第61表	第62号住居跡出土遺物觀察表	157
第27表	第28号住居跡出土遺物觀察表	80	第62表	第64号住居跡出土遺物觀察表	162
第28表	第29号住居跡出土遺物觀察表(1)	80	第63表	第66号住居跡出土遺物觀察表	164
第29表	第29号住居跡出土遺物觀察表(2)	82	第64表	第68号住居跡出土遺物觀察表	167
第30表	第30号住居跡出土遺物觀察表	86	第65表	第69号住居跡出土遺物觀察表	168
第31表	第33号住居跡出土遺物觀察表	93	第66表	第72号住居跡出土遺物觀察表(1)	171
第32表	第35号住居跡出土遺物觀察表	95	第67表	第72号住居跡出土遺物觀察表(2)	172
第33表	第36号住居跡出土遺物觀察表	98	第68表	第72号住居跡出土遺物觀察表(3)	173
第34表	第37号住居跡出土遺物觀察表	100	第69表	第73号住居跡出土遺物觀察表	175
第35表	第39号住居跡出土遺物觀察表	103	第70表	第74号住居跡出土遺物觀察表	177

第71表	第75号住居跡出土遺物観察表	178	第87表	第92号住居跡出土遺物観察表	217
第72表	第76号住居跡出土遺物観察表	180	第88表	土坑出土遺物観察表 (1)	223
第73表	第77号住居跡出土遺物観察表	185	第89表	土坑出土遺物観察表 (2)	224
第74表	第78号住居跡出土遺物観察表 (1)	185	第90表	井戸跡出土遺物観察表	234
第75表	第78号住居跡出土遺物観察表 (2)	188	第91表	溝跡出土遺物観察表 (1)	240
第76表	第79号住居跡出土遺物観察表	194	第92表	溝跡出土遺物観察表 (2)	242
第77表	第80号住居跡出土遺物観察表	195	第93表	溝跡出土遺物観察表 (3)	243
第78表	第81号住居跡出土遺物観察表	201	第94表	溝跡出土遺物観察表 (4)	244
第79表	第82号住居跡出土遺物観察表	203	第95表	グリッド出土遺物観察表 (1)	244
第80表	第83号住居跡出土遺物観察表	206	第96表	グリッド出土遺物観察表 (2)	255
第81表	第85号住居跡出土遺物観察表	208	第97表	グリッド出土遺物観察表 (3)	256
第82表	第86号住居跡出土遺物観察表	209	第98表	グリッド出土遺物観察表 (4)	257
第83表	第87号住居跡出土遺物観察表	211	第99表	グリッド出土遺物観察表 (5)	258
第84表	第88号住居跡出土遺物観察表	212	第100表	住居跡新旧対照表	259
第85表	第89号住居跡出土遺物観察表	213	第101表	土坑・井戸跡・溝跡新旧対照表	260
第86表	第90号住居跡出土遺物観察表	215	第102表	住居跡時期別表	262

## 図版目次

巻頭図版1	1	飯橋遺跡遠景	2	第28号住居跡	
	2	飯橋遺跡全景	図版17	1	第29号住居跡
巻頭図版2	1	第79号住居跡出土遺物	2	第30号住居跡	
	2	第1号溝跡出土遺物	図版18	1	第30号住居跡
図版1	1	調査区全景（南から）	2	第35号住居跡	
	2	調査区全景（南から）	図版19	1	第36号住居跡
図版2	1	調査区全景（南から）	2	第36号住居跡カマド	
	2	調査区全景（東から）	図版20	1	第37号住居跡
図版3	1	第1号住居跡	2	第39号住居跡	
	2	第1号住居跡カマド	図版21	1	第40号住居跡
図版4	1	第1号住居跡遺物出土状況	2	第41号住居跡	
	2	第2号住居跡	図版22	1	第43号住居跡
図版5	1	第2号住居跡遺物出土状況	2	第44号住居跡	
	2	第3号住居跡	図版23	1	第45号住居跡
図版6	1	第4号住居跡	2	第47号住居跡	
	2	第4号住居跡カマド	図版24	1	第48号住居跡
図版7	1	第4号住居跡カマド遺物出土状況	2	第48号住居跡カマド遺物出土状況	
	2	第4号住居跡埋蔵穴遺物出土状況	図版25	1	第51号住居跡
図版8	1	第5号住居跡	2	第52号住居跡	
	2	第5号住居跡遺物出土状況	図版26	1	第52・63・65号住居跡カマド
図版9	1	第5号住居跡遺物出土状況	2	第53号住居跡	
	2	第9号住居跡	図版27	1	第54号住居跡
図版10	1	第13号住居跡	2	第55号住居跡	
	2	第13号住居跡カマド	図版28	1	第55号住居跡カマド
図版11	1	第14・19号住居跡	2	第56号住居跡	
	2	第15号住居跡	図版29	1	第56号住居跡カマド
図版12	1	第16号住居跡	2	第56号住居跡カマド	
	2	第17号住居跡	図版30	1	第58号住居跡
図版13	1	第18号住居跡	2	第59号住居跡	
	2	第20号住居跡	図版31	1	第59号住居跡
図版14	1	第21号住居跡	2	第59号住居跡カマド	
	2	第25号住居跡	図版32	1	第60号住居跡カマド
図版15	1	第25号住居跡カマド	2	第61号住居跡	
	2	第26号住居跡	図版33	1	第62号住居跡
図版16	1	第26号住居跡カマド1	2	第64号住居跡	

図版34	1	第66号住居跡	2	第1号溝跡	
	2	第66号住居跡カマド	図版53	1	第1号溝跡南端遺物出土状況
図版35	1	第67号住居跡	2	第1号溝跡南端遺物出土状況	
	2	第67号住居跡カマド	図版54	1	第1号溝跡南端遺物出土状況
図版36	1	第68号住居跡	2	第1号溝跡南端遺物出土状況	
	2	第69号住居跡	図版55	1	第1号溝跡南端遺物出土状況
図版37	1	第70号住居跡	2	第2・3号溝跡	
	2	第71号住居跡	図版56	1	第2号溝跡遺物出土状況
図版38	1	第72号住居跡	2	第5号溝跡	
	2	第73号住居跡	図版57	第1号住居跡出土遺物	
図版39	1	第75号住居跡		第2号住居跡出土遺物	
	2	第76号住居跡		第3号住居跡出土遺物	
図版40	1	第77号住居跡		第4号住居跡出土遺物	
	2	第78号住居跡		第7号住居跡出土遺物	
図版41	1	第79号住居跡	図版58	第7号住居跡出土遺物	
	2	第79号住居跡カマド遺物出土状況		第8号住居跡出土遺物	
図版42	1	第79号住居跡遺物出土状況		第9号住居跡出土遺物	
	2	第79号住居跡遺物出土状況		第10号住居跡出土遺物	
図版43	1	第79号住居跡遺物出土状況		第11号住居跡出土遺物	
	2	第80号住居跡	図版59	第15号住居跡出土遺物	
図版44	1	第80号住居跡カマド遺物出土状況		第16号住居跡出土遺物	
	2	第81号住居跡		第17号住居跡出土遺物	
図版45	1	第81号住居跡カマド遺物出土状況		第18号住居跡出土遺物	
	2	第82号住居跡		第19号住居跡出土遺物	
図版46	1	第85号住居跡		第20号住居跡出土遺物	
	2	第85号住居跡カマド遺物出土状況	図版60	第21号住居跡出土遺物	
図版47	1	第87号住居跡		第22号住居跡出土遺物	
	2	第92号住居跡		第27号住居跡出土遺物	
図版48	1	第7号土坑遺物出土状況		第29号住居跡出土遺物	
	2	第11号土坑		第30号住居跡出土遺物	
図版49	1	第1号井戸跡		第33号住居跡出土遺物	
	2	第2号井戸跡遺物出土状況	図版61	第35号住居跡出土遺物	
図版50	1	第3号井戸跡		第36号住居跡出土遺物	
	2	第4号井戸跡		第37号住居跡出土遺物	
図版51	1	第5号井戸跡		第41号住居跡出土遺物	
	2	第6号井戸跡		第43号住居跡出土遺物	
図版52	1	第7・8号井戸跡		第46号住居跡出土遺物	

図版62	第47号住居跡出土遺物	第22号住居跡出土遺物
	第48号住居跡出土遺物	第23号住居跡出土遺物
	第50号住居跡出土遺物	第29号住居跡出土遺物
	第52号住居跡出土遺物	図版74
	第53号住居跡出土遺物	第29号住居跡出土遺物
	第55号住居跡出土遺物	第36号住居跡出土遺物
図版63	第55号住居跡出土遺物	第39号住居跡出土遺物
	第58号住居跡出土遺物	第47号住居跡出土遺物
	第59号住居跡出土遺物	第48号住居跡出土遺物
	第61号住居跡出土遺物	図版75
	第64号住居跡出土遺物	第48号住居跡出土遺物
図版64	第66号住居跡出土遺物	第52号住居跡出土遺物
	第69号住居跡出土遺物	第53号住居跡出土遺物
	第72号住居跡出土遺物	第54号住居跡出土遺物
	第73号住居跡出土遺物	第68号住居跡出土遺物
	第74号住居跡出土遺物	図版76
	第76号住居跡出土遺物	第74号住居跡出土遺物
	第77号住居跡出土遺物	第76号住居跡出土遺物
	第77号住居跡出土遺物	第77号住居跡出土遺物
図版65	第77号住居跡出土遺物	第78号住居跡出土遺物
	第79号住居跡出土遺物	図版77
	第79号住居跡出土遺物	第78号住居跡出土遺物
図版66	第79号住居跡出土遺物	図版78
	第80号住居跡出土遺物	第79号住居跡出土遺物
	第81号住居跡出土遺物	第82号住居跡出土遺物
	第85号住居跡出土遺物	図版79
	第87号住居跡出土遺物	第83号住居跡出土遺物
	第89号住居跡出土遺物	第85号住居跡出土遺物
図版67	第89号住居跡出土遺物	第87号住居跡出土遺物
	第2号井戸跡出土遺物	第90号住居跡出土遺物
図版68	第2号井戸跡出土遺物	第11号土坑出土遺物
	第1号溝跡出土遺物	図版80
図版69	第1号溝跡出土遺物	第7号土坑出土遺物
	グリッド出土遺物	第12号土坑出土遺物
図版70	グリッド出土遺物	グリッド出土遺物
図版71	グリッド出土遺物	図版81
図版72	グリッド出土遺物	グリッド出土遺物
図版73	第10号住居跡出土遺物	図版82
	第18号住居跡出土遺物	グリッド出土遺物
		図版83
		第4号住居跡出土遺物
		第10号住居跡出土遺物
		図版84
		第22号住居跡出土遺物
		第23号住居跡出土遺物
		第29号住居跡出土遺物
		図版85
		第29号住居跡出土遺物



	第36号住居跡出土遺物		第89号住居跡出土遺物
	第37号住居跡出土遺物		第11号土坑出土遺物
	第48号住居跡出土遺物	図附92	グリッド出土遺物
図附86	第50号住居跡出土遺物	図附93	第50号住居跡出土遺物
	第53号住居跡出土遺物		土玉
図附87	第53号住居跡出土遺物	図附94	土錘
	第55号住居跡出土遺物		勾玉・管玉・石製模造品
図附88	第56号住居跡出土遺物	図附95	白玉
	第59号住居跡出土遺物		紡錘車
	第72号住居跡出土遺物	図附96	砥石
図附89	第77号住居跡出土遺物		石製品
	第79号住居跡出土遺物	図附97	板碑
図附90	第79号住居跡出土遺物		耳環
図附91	第80号住居跡出土遺物	図附98	鉄製品
	第81号住居跡出土遺物		

# I 発掘調査の概要

## 1. 発掘調査に至る経過

国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所が施行する大高島地区河川防災ステーション整備事業は、スーパー堤防の築造後、その上に災害時の復旧活動の拠点として、ヘリポート、応急復旧用原材料の備蓄庫、避難所などの各種施設を整備するものである。

埼玉県教育局では、こうした国施行の公共開発事業に係る埋蔵文化財の保護について、従前より関係機関と事前協議を重ね調整を図ってきたところである。

「大高島地区河川防災ステーション整備事業地内における埋蔵文化財の所在及び取扱いについて」は、利根川上流工事事務所長（当時）から平成14年12月26日付け利上沿第18号で照会があった。

当該事業予定地内には、埼玉県選定重要遺跡「飯積遺跡」の所在が周知されていたため、県教育局では、平成15年1月10日に遺跡範囲等確認のための試掘調査を実施し、その結果をもって、平成15年1月15日付け教文第1383号で次の内容を回答した。

### 1 埋蔵文化財の所在

名称：飯積遺跡(N.73-001)(県選定重要遺跡)

種別：集落跡

時代：古墳・奈良・平安

所在地：北川原大字飯積小字本村165～172番地他

### 2 取扱いについて

上記の遺跡は、県選定重要遺跡であるので埋蔵文化財が所在する範囲については、工事計画から除外するなどにより、現状保存の措置を講じることが望ましい。なお、やむを得ず工事等により現状を変更する場合には、その取扱いについて別途協議すること。

(補足のための確認調査は、平成16年2月2日

に実施し、その結果は平成16年2月9日付け教文第3326号で回答している。)

利根川上流河川事務所と県教育局は、飯積遺跡の保存について協議を重ねたが、現状保存は困難との結論に達したため、やむを得ず記録保存のための発掘調査を実施することとなった。

国土交通省関東地方整備局長、埼玉県教育委員会教育長及び財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業理事長の3者による平成15年9月17日付け「大高島地区河川防災ステーション整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の実施に関する協定書」が締結され、平成15年9月から発掘調査が開始された。

発掘調査の進行に伴い、遺跡における住居跡の分布が濃密かつ重層しほぼ全面的に2層にわたることが明らかになったため、利根川上流河川事務所、県教育局及び埋蔵文化財調査事業団の3者でその取扱いについて改めて協議を行い、平成17年4月5日付け「大高島地区河川防災ステーション整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の実施に関する協定書の一部を変更する協定書」により、現場発掘作業の終了を「平成17年3月31日」から「平成17年9月30日」に変更することとした。

なお、国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所長提出の発掘通知（文化財保護法第57条の3：当時）に対する県教育委員会教育長からの勧告は、平成15年9月30日付け教文第3-239号で通知した。

また、県埋蔵文化財調査事業理事長提出の発掘調査届（文化財保護法第57条：当時）に対する県教育委員会教育長からの指示は次のとおりである。

平成15年9月30日付け教文第2-50号

平成16年4月14日付け教文第2-7号

平成17年5月17日付け教文第2-12号

(埼玉県教育局河川村支援部生涯学習文化財課)

## 2. 発掘調査・報告書作成の経過

### (1) 発掘調査 (第2・3・4次調査)

#### 第2次調査

飯橋遺跡の第2次調査は、平成15年9月22日から平成16年3月24日まで実施した。調査面積は3,000㎡である。

9月下旬より事務手続き、調査事務所等の設営を行い、併行して重機による表土除去作業を開始した。10月から補助員による作業に着手した。まず、湧水を排水するための溝の掘削を行った後、遺構確認作業、遺構精査を実施した。平面的な遺構の確認が困難な調査区南東部は5×5mのグリッド調査を行い、土層断面から遺構の確認を行った。遺構確認の結果、古墳時代後期から奈良・平安時代の住居跡、戦国時代の溝跡や井戸跡等が検出された。

遺構精査の後、土層断面図・平面図等の作成、遺物出土状況や遺構の写真撮影を行い、平成16年3月17日に空中写真撮影を実施した。

遺構の調査終了後、事務所撤去・事務手続きを行い調査は終了した。

#### 第3次調査

平成16年4月8日から平成17年3月31日まで実施した。調査面積は第1面(上層)4,900㎡、第2面(下層)1,900㎡である。

4月より事務手続き、調査事務所等の設営を行い、調査区の安全確保のためにシートバイルの設置を行った。その後、重機による表土除去、補助員による作業を開始した。昨年度同様、湧水を排水するための溝の掘削を行った後、遺構確認作業、遺構精査を実施した。遺構確認の結果、古墳時代後期から奈良・平安時代の住居跡等が多数検出された。10月末には第2面の調査を行うため、再度重機による掘削を実施した。

遺構精査の後、土層断面図・平面図等の作成、遺

物出土状況や遺構の写真撮影を行い、3月事務手続きを行い調査は終了した。

#### 第4次調査

平成17年4月8日から平成17年9月30日まで実施した。調査面積は第2面(下層)の3,000㎡である。

昨年度の作業を引き継いで遺構精査を実施した。

遺構精査の後、土層断面図・平面図等の作成、遺物出土状況や遺構の写真撮影を行った。6月30日空中写真撮影を実施し、その後、旧河道の調査を行った。遺構や旧河道の調査終了後、9月末に調査区の埋め戻し、器材・事務所等の撤収・撤去、事務手続きを行い、全ての調査が終了した。

### (2) 整理・報告書の作成

整理・報告書の作成事業は、平成17年4月8日から平成18年3月31日までと平成18年4月10日から平成19年3月31日まで実施した。

平成17年度は、平成15・16年度に調査されたうちの2,200㎡分の整理を行った。4月初年から出土遺物の水洗・註記を行い、続いて遺物の接合・復元作業を行った。並行して全体図・遺構断面は、図面修正を経て第二原図を作成し、スキャナーで取り込んだものをコンピューターでデジタルトレースを行った。遺物は復元が終了したのから実測作業に入り、順次トレース・採拓を開始した。

平成18年度は残り5,700㎡分の整理を行った。作業は前年度同様に進じた。

11月に遺物の写真撮影、図面・写真の割付、原稿執筆を進め報告書の編集を開始した。平成19年1月上旬に印刷会社を決定し入稿、校正を経て、3月末に報告書を刊行した。入稿後に本報告書で扱った図面類・写真類・遺物等を整理・分類し、取納作業を行った。

### 3. 発掘調査・整理・報告書刊行の組織（第2・3・4次調査・整理報告書作成）

#### 平成15年度（発掘調査）

理事 長	桐川 卓 夫	調査部	
常務理事兼管理部長	中 村 英 樹	調 査 部 長	宮 崎 朝 雄
管理部		調 査 部 副 部 長	坂 野 和 信
管 理 部 副 部 長	村 田 健 二	主 席 調 査 員 (調査第二担当)	劍 持 和 夫
主 席	田 中 由 夫	統 括 調 査 員	岩 瀬 謙
		調 査 員	永 井 いずみ

#### 平成16年度（発掘調査）

理事 長	福 田 陽 充	調査部	
常務理事兼管理部長	中 村 英 樹	調 査 部 長	宮 崎 朝 雄
管理部		調 査 部 副 部 長	坂 野 和 信
管 理 部 副 部 長	村 田 健 二	主 席 調 査 員 (調査第二担当)	劍 持 和 夫
主 席	田 中 由 夫	統 括 調 査 員	田 中 広 明
		調 査 員	加 藤 隆 則

#### 平成17年度（発掘調査・整理報告書作成）

理事 長	福 田 陽 充	調査部	
常務理事兼管理部長	保 永 清 光	調 査 部 長	今 泉 泰 之
管理部		調 査 部 副 部 長	坂 野 和 信
管 理 部 副 部 長	村 田 健 二	主 席 調 査 員 (調査第二担当)	劍 持 和 夫
主 席	高 橋 義 和	統 括 調 査 員 (調査)	鈴 木 孝 之
主 席	宮 井 英 一	統 括 調 査 員 (調査)	田 中 広 明
		統 括 調 査 員 (調査)	山 本 靖
		調 査 員 (調査)	清 水 慎 也
		主 席 調 査 員 (整理第二担当)	金 子 直 行
		調 査 員 (整理)	加 藤 隆 則

#### 平成18年度（整理報告書作成）

理事 長	福 田 陽 充	調査部	
常務理事兼総務部長	岸 本 洋 一	調 査 部 長	今 泉 泰 之
総務部		調 査 部 副 部 長 兼 資 料 活 用 部 副 部 長	小 野 美 代 子
総 務 部 副 部 長	昼 間 孝 志	主 幹 兼 整 理 第 一 課 長	藏 崎 一
主 幹 兼 企 画 課 長	劍 持 和 夫	主 査	鈴 木 孝 之
総 務 課 長	高 橋 義 和	主 査	岩 瀬 謙
		主 事	加 藤 隆 則
		主 事	清 水 慎 也

## II 遺跡の立地と環境

### 1. 地理的環境

飯積遺跡の位置（第1・2図）

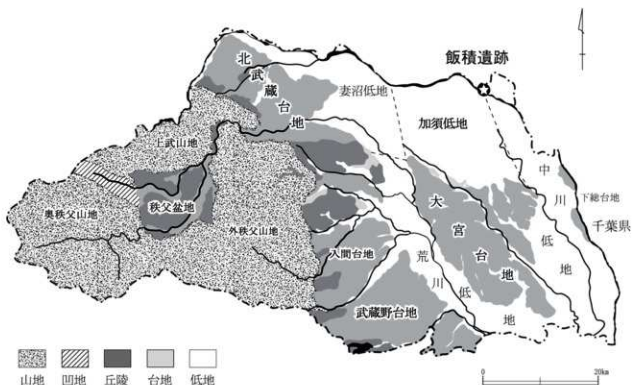
飯積遺跡は、埼玉県北埼玉郡北川辺町大字飯積字本村に所在し、東武日光線柳生駅の南西約3.5kmの距離にある。東流する利根川と、近世まで流れていた合の川が分流するその付根に位置している。

飯積遺跡の所在する北川辺町は、埼玉県の北東端に位置している。都心からは60km圏内にあり、人口1.3万人を擁し、近年都心のベッドタウン化が著しい。町の四周は河川が巡り、南側を除く三方は他県と接している。北は谷田川を境として栃木県下都賀郡錦町、東は渡良瀬川を境に茨城県古河市、西は合の川の旧流路を境に群馬県邑楽郡板倉町と接している。また、南西に位置する加須市と北埼玉郡大利根町とは、利根川を隔て接しており、県内では唯一利根川左岸に立地する町である。

町の北東部では渡良瀬川と谷田川が合流し、この

下流3kmの地点では利根川と渡良瀬川が合流する。このため北川辺町は、古くから両河川の洪水に見舞われた。昭和22（1947）年のカスリーン台風で、町が一夜にして水没したことは記憶に新しい。町内に今もなお残る水塚は町内屈指の数であり、洪水の影響の大きさをうかがわせる。町の歴史は、水害との歴史とも言い表せよう。

北川辺町の交通は、北側に国道354号線が東西方向に走り、西は群馬県高崎市まで通じている。東は、町北東部で三国橋や新三国橋により茨城県古河市と連絡し、同県銚田市、鹿島灘沿いに北上する国道51号線に通じている。また南は、昭和47（1972）年に完成した埼玉大橋によって大利根町と通じているが、完成以前の埼玉県側への交通は飯積と栄にある渡船によるものであった。



第1図 埼玉県の地形

### 周辺の地形 (第3図)

北川辺町周辺の地形は、大きく洪積台地と沖積地に分かれている。北川辺町は、加須低地の北東部に位置しており、南側を除く三方を台地に囲まれている。西側は本遺跡対岸の板倉町大高島まで芭菜台地が迫っており、北側は同町海老瀬まで、藤岡台地が残存に伸びてきている。このほか、東側は利根川を挟んだ対岸に猿島台地が広く分布している。

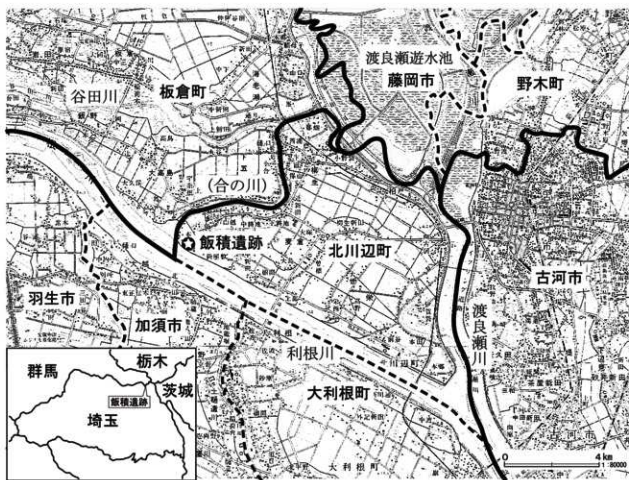
ところで、本遺跡が位置する加須低地では、関東造盆地運動の影響により、洪積台地が沖積地の中にもぐりこんで「埋没台地」となっている。北川辺町を取り囲む台地もこの影響を受けており、群馬県側の芭菜台地では、台地東側と南側の標高が低くなり、台地と連続した埋没台地が確認されている。また、本遺跡とは利根川を挟んだ加須市大越においても埋没台地は確認されている。また、猿島台地では、北

側よりも台地南側の標高が低く、低地部との識別が困難な景観となっている。

一方、北川辺町の地形は、自然堤防、後背湿地、海路跡からなる。現在の集落は自然堤防上に発達し、後背湿地には水田が広がっている。また、町内各所で見られる蛇行流路跡は、かつての乱流した河川の姿を偲ぼせる。小野袋や伊賀袋などの地名にも、蛇行河川の様子を思い描くことができるだろう。

このほか、町内に見られる地形として特筆されるのは、河畔砂丘である。本遺跡の北東700m、飯積字山越では全長520m、最大幅100mほどの河畔砂丘(＝飯積河畔砂丘)が残存されている。河畔砂丘は、加須低地や中川低地において、利根川日流路に沿って確認されるが、飯積河畔砂丘はこのうちもっとも北側に位置している。

周辺地域の標高は、芭菜台地の最東端の地で17～



第2図 飯積遺跡周辺図



第3図 飯積遺跡周辺の地形

18m、北側の藤岡台地で20~25m、東側の猿島台地で16~20mとなっている。一方、北川辺町の標高は、1960年頃の記録では、先述の飯積河畔砂丘の遍照寺において標高26.2mを計測したとあるが、土取りにより現在この地形はうかがえない。当初はこの地点が町内の最高所であったらしい。現在確認できる

標高は、町西側の本遺跡付近が16mともっとも高く、東側の本郷付近で13mと低くなり、全体としては西から東へ向かって下がっている。飯積遺跡は、この標高16m程度の現地表から2~3mほど下位の標高13.5mほどの自然堤防上に立地している。

## 2. 歴史的環境

飯積遺跡では、古墳時代後期に埋まった流路跡、古墳時代後期から奈良・平安時代、中世末から近世にかけての遺構・遺物を検出した。また、第3・4次調査区の調査前には、飯積神社の本殿基礎部分が残されており、あわせてこの調査を行っている。

飯積遺跡の所在する北川辺町の特徴として、①この土地が古くから河川と密接に関わっていること、②発掘調査例が少なく考古学的なデータの乏しい地域であること、という二点が指摘される。そこで、飯積遺跡を理解するため、「河川の変遷」と「町内遺跡発見の記録」について、以下で触れてみたい。

### 河川の変遷

北川辺町の南側を流れる利根川はかつて、羽生市付近から加須低地を南流し東京湾に注いでいた。現在のように千葉県鎌子市にて太平洋へ流れ込むようになったのは、徳川幕府による近世初頭の利根川東遷事業の結果である。利根川東遷事業と河川の変遷に関する考察は枚挙に暇がなく、ここでは詳細に触れないが、その概要を示すと以下ようになる。

近世以前の北川辺町付近の利根川は、本遺跡西側で北流する合の川、本町中央部で見られる北川辺蛇行流路、大利根町佐波から南東に流下する浅間川の

三流に分派していた。利根川東遷事業は、江戸へ物資を集める船運目的で行われたとされ、文禄3(1594)年、羽生市上新郷の地において、会の川を締め切ったことに端を発する。その後、元和7(1621)年には、大利根町佐波から猿島郡程遡沼までを開削し(新川通)、その後、寛永2(1625)年の拉幅、宝永2(1705)年の増堀を経ることになる。北川辺航行流路は、新川通開削により、両端を締め切れ流路跡となった。さらに天保9(1838)年には、合の川と浅間川が完全に締め切れ、このとき現在の流路がまほ現出したのである。

以上が、北川辺町付近における、江戸時代の利根川東遷事業による河川の変遷の概略であるが、飯積遺跡を理解する上で特に重要なのは、これ以前の河川流路の様相である。しかしながら、利根川に関する、近世以降の記録が多く残されたのに対し、中世

や古代に遡る記録はほとんど見られない。ましてや、飯積遺跡の形成された古墳時代後期頃の流路を推し量ることは相当困難であろう。このような状況にあって、本遺跡では、古墳時代後期に埋まった流路跡を確認することができた意義は大きい。

#### 町内遺跡発見の記録(第1表)

北川辺町では、昭和50(1975)年発行の「埼玉県遺跡地名表」に、9箇所の遺跡と1箇所の旧跡が登録されている。町内遺跡の発掘調査例はたいへん少なく、本報告を除けば、現在までに行われた発掘調査は、昭和54(1979)年の、北川辺町教育委員会による飯積遺跡第1次調査と、昭和58(1983)年の(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団による太田遺跡(第5図6)のみである。

しかしながら町内では、各地において遺物発見の口伝や記録が残されている。そこで以下では、考古

第1表 北川辺町遺跡一覧

No.	遺跡名	時期	立地	遺跡の内容	発見の契機(年)
1	飯積遺跡	古墳後期～奈良・平安・中・近世	自然堤防A	竪穴住居跡(古墳後期)191軒、(奈良・平安)53軒、土坑42基、井戸跡31基、溝跡14条、流路跡(古墳後期)、方形区画(中～近世)、鷲神社跡(近世～現代)	発掘調査(1979・2004～2006)
2	須賀遺跡	古墳後～奈・平・中・近	自然堤防A	土師器片、砥石、骨片、須恵器	耕地整理
3	山越遺跡	古墳後期～奈良	自然堤防A	土師器片、かまど石、骨片、骨壺	耕地整理(1958)
4	麦倉遺跡	奈良・平安・鎌倉	自然堤防A	無数の土器片、板碑	耕地整理
5	藤畑遺跡	古墳中～奈・平	自然堤防A?	土師器埋、甕、環、高坏	沼地埋め立て
6	新田(太田)遺跡	古墳後期～奈良・平安	自然堤防B	土師器、須恵器、土玉、古銭、焙烙、天目茶碗、皿、漆鉢、煙管、灰輪香炉、青磁片出土。遺物1600点検出するが地層的に乱れている。	発掘調査(1980)
7	曾根遺跡	古墳中・後期奈良・平安	自然堤防B	完形土器と無数の破片	
8	伊賀袋遺跡	古墳中期	自然堤防C	土師器1個体	
9	荷井の陣屋	戦国～江戸	自然堤防A	陣屋跡	
10	鶴島	古墳後～奈・平	自然堤防A	土師器甕、高坏、環、須恵器環「東」墨書	樋管工事(1959)
11	飯積	古墳後期	自然堤防A	土師器多数、灰の集積、加工痕ある角閃石安山岩19点→古墳石室か?	樋管工事(1958)
12	久保山	中世	自然堤防A	板碑	
13	小野袋	古墳中・鎌倉		土師器1個体、板碑	
14	土部	鎌倉～室町	自然堤防B	板碑(建造1277)～文安6(1449)年)多数	耕作中出土(1903)
15	柳生新田	古墳中期	自然堤防B	土師器高坏、甕(坏?)、長綱甕、甕、埴、板碑	
16	越中沼東	古墳?		土器片	
17	飯積三軒	古墳時代前期	自然堤防B	折り返しE線土師器壺	

凡例：自然堤防A=合の川沿い、自然堤防B=北川辺航行流路沿い、自然堤防C=渡良瀬川沿い

※No.1～9までは「埼玉県遺跡地名表」(1979)をもとに追加修正。No.10～16までは「北川辺史の研究 第1巻」(1960)。

No.17は「飯積遺跡」(1979)をもとに作成。



学的データの乏しい本地域の状況を考慮し、これらの発見の記録を整理しておく。

第1表では、町内で確認された遺跡や遺物出土地点を掲載した。掲載遺跡および遺物収集地点は、17箇所である。その立地はいずれも自然堤防上であり、地点は大きく、自然堤防A・B・C（その位置は表凡例に示した）に分かれる。時期は、古縄時代前期から中・近世までの遺物が確認され、特に古縄時代後期の土師器と、鎌倉・室町時代の板碑が目立つ。町内で最も古い資料は、飯積三軒（17）出土の土師器甕で、4世紀後半頃に位置づけられる。

このほか、同表の補足をみると、No10「飯積」は、今回の調査地から200～300mほど東側の堤外地（堤防南際）を指している。「北川辺史の研究第1巻」では、同地点で、昭和33（1958）年の樋管工事の際、土師器の完形品多数と無数の破片に伴い、角刈石安山岩19点が出土したと記されている。これらの鏝を見学する機会に恵まれたが、これによれば、角刈石安山岩は、加工痕ある切石で、周辺地域の古墳の石室石材とよく似たものである。町内における古墳の発見はまだなく、注目されるだろう。

また同書では、「鶴島発見の土師器」として、本遺跡第1次調査前の遺物発見例についても触れている。これによれば、遺物は、昭和34（1959）年の樋管移設工事に伴い、第2次調査区と第3・4次調査区の間、町道1229号線が利根川堤防とぶつかる地点で出土したとある。これらの資料も実見機会があったが、これによれば、本調査でも出土した古墳時代後期の栃木県南部の土師器高坏が含まれていた。ここでは掲載遺跡のすべてについて触れられず、また、板碑出土地点はこれがすべてではない。

#### 周辺の遺跡（第4・5図）

飯積遺跡では、古縄時代後期に埋まった流路跡、古縄時代後期から奈良・平安時代の集落跡、中世末から近世の区画溝や土坑、井戸跡などが検出された。弥生時代以前の遺構・遺物は、本遺跡のみならず、町内においても確認されており、該期の様子は、

必ずしも理解されていない。

そこで以下では、飯積遺跡で検出された古縄時代後期から奈良・平安時代、中・近世の遺跡を中心に、資料の乏しい当該地域の状況を顧み、旧石器時代から弥生時代についても簡単に触れておきたい。

北川辺町周辺での旧石器時代遺跡は非常に少なく、邑楽台地で大袋遺跡（25）、藤岡台地では城山遺跡（31）、猿島台地では野木Ⅲ遺跡（33）をあげるのみである。大袋遺跡では発掘調査により尖頭器、搔器、細石刃が出土している。また、野木Ⅲ遺跡では、昭和63（1988）年の調査区でスクレイパーや剥片など石器3点が確認されている。

縄文時代になると遺跡数は急激に増加を見せる。もっとも、周辺地域における草創期の遺跡は、猿島台地の清六Ⅲ遺跡（32）で、17点6器種の石器が指摘されているだけで、共存関係にある土器群や遺構は未だ確認されていない。

早期然糸文期も、遺構を伴う遺跡はない。先述の清六Ⅲ遺跡や古河市域の長谷遺跡（34）、鴻巣C・出口南遺跡（37）、往還Ⅴ遺跡（39）で土器片数点が収集されただけである。

中期後半頃になると気候の温暖化に伴い、北川辺町周辺まで海水が浸入し（縄文海進）、奥東京湾を形成した。海進海退については、地質学的検討、考古学の調査成果により古くから議論されてきた。ここではその詳細には触れないが、奥東京湾最奥部の海岸線位置については、台地上の貝塚の分布から栃木県藤岡町付近まで、また、海進ピーク期は、地質学的な検討から、黒浜式期から諸磯a式期とされている。いずれにしても、縄文時代早期末から前期中頃までの北川辺町は、海水の浸入した湾または河口となっていた。町内では該期の遺跡は形成されず、周辺台地が生活の舞台となった。

中期後半条文期になると、猿島台地では遺跡数がやや増加し、邑楽台地や藤岡台地では、貝塚を伴う遺跡が形成される。邑楽台地では、小保呂第一貝塚（18）・第二貝塚（19）で、マガキやヤマトシジ

ミを主体とする層が確認されている。また藤岡台地東縁部では、寺西貝塚 (28)、一峯貝塚 (26)、麓山貝塚 (27) など、ヤマトシジミを主体とする茅山式期の貝塚が見られ、すでにこの頃、周辺の低地域一体が砂浜性の湾ないしは河口となっていたことがわかる。

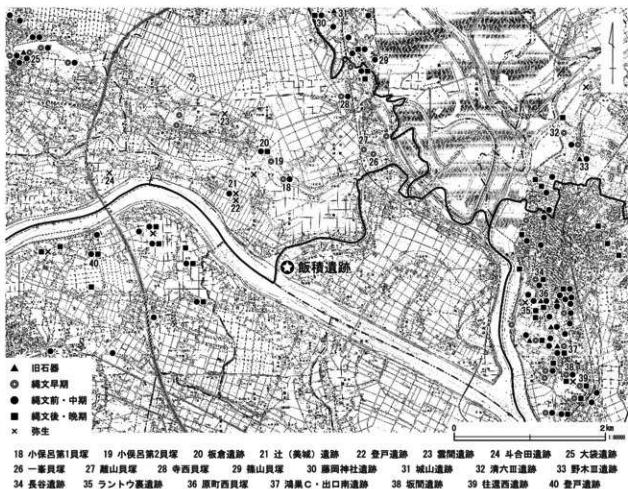
前期前半丸山式期には、藤岡台地で、環状集落の麓山貝塚 (29) が確認されている。前期中・後期丸山式期には、邑楽・猿島岡台地で遺跡数が増加する。特に猿島台地では遺跡の密集が著しく、原町西貝塚 (36) では環状に巡る集落が確認された。また、清六川遺跡では、貝層を伴う黒石期明の土坑が確認されており、該期の最奥部の貝層である。

藤岡台地では、板倉沼に面する藤岡神社遺跡 (30) で、6 軒の竪穴住居跡が確認されている。

前期後半以降は、次第に海が退き、湾や河口は徐々に南へ移動していった。当然ながら、海退後の低地域は、即座に居住域に転じたわけではなく、長期にわたって湿地となっていたものと思われる。

汀線の移動と呼応するように、前期後半から中期初頃は、集落がほとんど見られなくなる。また、中期前半も、土器片を出土する遺跡は見られるものの、遺構を伴った遺跡は非常に少なく、藤岡神社遺跡で阿玉台式期の集落が見られるのみである。同遺跡はその後、加曾利E式～晩野女式期まで、遺構の増減を繰り返しながら集落が継続する。

中期後半以降の遺跡は、散布地としていずれの台地にも多数存在するが、調査事例が少なく、遺構が明らかにされた遺跡はほとんどない。しかしながら、藤岡神社遺跡の例を見る限り、周辺の台地にも該明



第4図 遺跡分布図(旧石器～弥生)

の集落が存在する可能性は高い。

後期・晩期の遺跡としては、猿島台地の板倉遺跡(20)で良好な資料が確認されている。同遺跡は、昭和前期からすでに、縄文時代晩期の遺跡として紹介され、該期の型式論研究に供されている。出土土器は、阿玉台式から安行3c式期まで見られ、その他、大型の遮光器系土偶や石剣、岩版、土版など儀礼に用いられた遺物が多数出土した。また、同じ板倉沼に面した藤岡神社遺跡では、晩期安行式期の竪穴住居跡2軒に伴い、大冢式を含む多量の土器が出土した。

一方、加須低地帯の縄文時代の遺跡は、調査例がほとんどなく、実態は推測していない。しかしながら羽生市域では、台地上で、前期から後・晩期までの遺物が採集され、特に後・晩期の資料が目立つ。発戸遺跡(40)は土製版面の出土で有名である。

以上のように、晩期前半頃までの良好な資料を残した当地域は、その後半期には遺跡数が激減し、弥生中期まで、いずれの台地においても遺跡がほとんど見られなくなる。

邑楽台地では、雲間遺跡(23)で、中期前半の墓跡または集落跡と推定されているほかは、辻(美城)遺跡(21)(中期前半)、登戸遺跡(22)(須和田式期)、斗合田遺跡(24)の数例をあげる事ができるが、いずれも遺構は伴わない。

猿島台地側でも集落の検出例はなく、遺跡自体の数も少ない。このような中で、須和田式期の再葬墓19基を検出した清六遺跡も、該期の墓制を知る上で格好の資料を提供した。このほか、同台地では、須和田式期のラントウ夷遺跡(35)、土王台式期の坂間遺跡(38)の2例をあげるのみである。

次に、飯積遺跡の形成された古埴時代以降の周辺遺跡を見ていこう(第5図)。

低地域のもっとも古い遺跡は、町内における飯積三軒や柳生新田遺跡(15)があげられ(前項第1表参照)、時期は4世紀後半から5世紀前半に位置づけられる。ともに採集資料で遺構は伴わないが、町

内における低地域への集落形成は、現状では、この時期をもって行われたと理解しておきたい。

飯積遺跡では、5世紀後半から自然堤防上に集落が形成され始める。調査の結果、集落形成以前の自然堤防は、河川の浸食を経験していたことが明らかになった。この時代、流路は比較的簡単に変更しやすく、飯積遺跡は、河川浸食が終わり、流路の安定した自然堤防上に形成された集落であった。

以上のような集落形成が行われる一方で、引き続き台地には集落が形成され、古墳も築造された。

弥生時代から古埴時代への移行は、調査例が少なくその様相は捉え難い。邑楽台地の赤生田遺跡(56)では、弥生時代末頃から古埴時代前期の方形周溝墓が検出された。該期の数少ない資料である。

前期古墳では、邑楽台地の赤城塚古墳で、三角縁仏獣鏡が出土している。また、猿島台地側では、前・中期の土器を採集できる遺跡は数多いが、ほとんど調査がない。唯一、清六遺跡では、古埴時代前期の周溝墓3基の調査例があり、周溝からは折り返し口縁の土師器壺が出土し、近接する地点でバレススタイルの土師器壺が確認されている。

中期後半から後期になると、周辺地域では、比較的大規模の集落を形成し、群集墳を築くようになる。

北川庄町内遺跡同様、周辺地域で低地域に集落形成を開始するものもこの時期からで、谷田川左岸では沼田南遺跡(50)や花和田遺跡(49)、右岸では伊勢ノ木遺跡(45)や岡西遺跡(46)、上流では上江黒遺跡(57)、また、利根川左岸では新村下遺跡(48)や城遺跡(47)などの集落が営まれた。いずれの遺跡も、古埴時代中期から後期に集落が形成され、奈良・平安時代まで継続している。

このうち、沼田南遺跡や花和田遺跡、岡西遺跡、新村下遺跡、城遺跡では、古代の洪水層が確認された。低地域特有の現象であり、本遺跡の洪水層を位置づけていく上で非常に参考になる。また、伊勢ノ木遺跡では、本遺跡でほとんど出土しない、内籾陶文土器がまとめて見られ、その相契が注目される。

以上の遺跡群は、飯積遺跡や北川辺町内遺跡の、低地域への集落形成を考える上で、その時期が古墳時代中期とほぼ一致を見せること、また、非常に大規模で継続的な集落形成が行われているという二点において注意されよう。

一方、狼島台地では、渡良瀬遊水池を挟んだ、飯積遺跡から北東8.5kmに、本遺跡と並行する野木Ⅲ遺跡や清六Ⅲ遺跡、杏林製菓工場内遺跡(59)などの集落が形成された。特に野木Ⅲ、清六Ⅲ遺跡では、栃木県南部地域に特徴的な土師器杯や甕が多出している。先述の、内斜桁文杯を多出した伊勢ノ木遺跡と合わせて、本遺跡を含めたこの狭いエリアに位置する遺跡の出土土器の差異は、当時の国境とこれをめぐる交流を考える上で非常に興味深い問題である。

古墳時代後期は、周辺において古墳群の営まれた時期でもある。加須団地の埋没台地上では、加須市域において大越古墳群(A)や樋遣川古墳群(B)、羽生市域で村君古墳群(C)、今泉古墳群(D)、尾崎古墳群(E)などが築かれた。いずれの古墳群も調査はほとんど行われていないが、村君古墳群にある永明寺古墳(66)(全長78mの前方後円墳)では、昭和6(1931)年に主体部の礎石が開けられ、武器や馬具、金環などが出土した。出土遺物によれば6世紀初頭の築造である。また、樋遣川古墳群の西2.5kmにある鶴ヶ塚古墳(65)では柳形須輪が出土しており、6世紀第Ⅲ四半期の時期が与えられている。

邑楽台地では、6世紀後半から7世紀初頭にかけて、洲ノ上古墳(55)、道明山古墳(52)、筑波山古墳(53)、舟山古墳(54)などの前方後円墳が継続して築かれた。これらの古墳は、いずれも石室石棺に角閃石安山岩を用いているのが特徴である。同石材を石室に用いた古墳は、利根川流域に分布し、上流では群馬県渋川市付近で、また下流では古利根川沿いの北葛飾郡銚子町目沼6号墳でも確認されている。

一方、藤岡台地側では、7世紀後半に頼母子横穴群(58)が形成された。周辺地域にこれ以外の横穴墓はなく、分布の偏在性が注目される。

狼島台地では、野度古墳群(F)が確認されているほか、古河市域で頼政郭古墳(60)、虚空蔵菩薩前古墳(61)、元大六天古墳(62)、東谷古墳(63)駒塚古墳(64)など、後期古墳が多数確認されている。現存古墳は少ないが、市内には「四ツ塚」の小字名も残っており、かつての古墳群の存在を偲ぼせる。

調査例も少なく、その記録もわずかであるが、駒塚古墳の調査では、6世紀後半の円筒埴輪片や形象埴輪(人物埴輪、大刀形埴輪)を検出している。また、6世紀後半の頼政郭古墳では、横穴式石室の埋葬主体から、多数の副葬品が出土した。その内容は、金環や管玉・切子玉・霏玉・ガラス玉などの玉類、鉄鎌・刀子などの鉄製品である。

ところで、前項でも触れたように、現状では、飯積遺跡近在で古墳は確認されていないが、周辺で石室石材と思しき角閃石安山岩の截石が出土しており、古墳群が存在していた可能性は高いであろう。

奈良・平安時代は、飯積遺跡で、前代から集落が引き続いて営まれ、住居規模の縮小化、平面形や集落配置の変化が起こった時期である。周辺遺跡では、清六Ⅲ遺跡や伊勢ノ木遺跡でも、前代からの集落が継続して営まれた。清六Ⅲ遺跡では本遺跡同様、住居規模の縮小化や集落配置の変化が見られる。このほか、伊勢ノ木遺跡の東方500mの小保呂遺跡(44)でも散在した集落配置はうかがえる。

該期の生産遺跡としては、須恵器窯のほか、土師器焼成土坑を検出した遺跡をあげることができる。

本遺跡北方16kmには三龜山が控え、窯業開始期を7世紀末頃とする三龜山麓窯跡群が位置する。地理的にはもっとも近傍の窯跡であり、その分布域は本遺跡を越え、埼玉県南東地域にまでおよぶ。本遺跡では僅かではあるがその製品が確認されている。

また、狼島台地の清六Ⅲ遺跡、加須団地の水深遺跡では、土師器焼成坑が確認されている。

平安時代も中期(10世紀後半)になると、飯積遺跡は集落としての機能を終え、中世末期までこの地への人的介入は見られなくなる。時代背景としては、



第5図 遺跡分布図(古墳～中・近世)

